

「生き方」を考える

VOL.18

「男女共同参画って、難しい」とよく言われます。簡単に言ってしまうえば、「『男』や『女』である前に、一人の人間として、いきいきと生きましょう」ということです。

「女には無理」とか「男だからできる」。そんな性別に対する固定的な決め付け、障害は少しずつ無くなりつつありますが、男女間には今も社会的格差があります。

たまには「男」「女」であるより「自分」であることを優先させたら、少しはストレスから開放されるのではないのでしょうか。

市では、少しでも多くの方が自分らしく、いきいきと生活できるよう、多彩な講師陣でバラエティーに富んだ講座を企画しています。

昨年の講座では、『ストレス軽減のコミュニケーション』

『女性の自立と税金や年金の仕組み』などのテーマで、五人の講師のお話を聞きました。参加者からは、

「あつという間でした。分かりやすい言葉で、楽しく聞けました」

「実生活にすぐ役立ちそう」「参加型という内容が新鮮。楽しく学習できた」

などのご好評をいただきました。

今年も、「自分の気持ちをもちとうまく伝えたい」という人に役立つディベートや、「男を休む日」と題した『新しい男らしさを考える』講座など、五つのテーマで企画しました。

詳しい内容は、全戸回覧のチラシ（十月初め）でご確認ください。

詳しくは、総合政策課（内線2112）へどうぞ。

教育夢発信

駄知小学校附属幼稚園

「自然との触れ合い活動」



駄知小学校附属幼稚園は、園庭が広くて花壇がたくさんあります。今は、ラズベリー・びわ・ミニトマトなどを栽培したり、サルビア・マリゴールド・日草・ペゴニア・ポーチュラカなどの花を育てています。六月には、ジャガイモ掘りをしました。自分で掘ったとれたての芋を持ち帰り、家族で味わいました。園児たちはジャガイモの収穫後にサツマイモの苗を植え、収穫を楽しみに水やりや草取りをしています。秋には、親子で焼き芋会を行う予定です。また今年度は、園児一人ひとり、



自分の名前の付いた小さなプランターにペゴニアを一株ずつ植えました。園児たちは、株を大きくするために、花の摘み方や水のやり方を覚えたりして、毎日世話をしてきました。夏休みは、家庭に持ち帰り世話を続け、休み明けには、きれいな花を咲かせてきてくれました。このプランターのペゴニアは、運動会で保護者や地域の方々の観覧席前に展示しました。十一月には、岐阜県の環境社会推進事業「大気環境木の森づくり」により、園の東側斜面に親子で山茶花を植える計画をしています。

このような経験や活動を通して、園児たちが優しく温かい心を持つ人間に育ってくれるよう願っています。